



神奈川県

漁業調査指導船

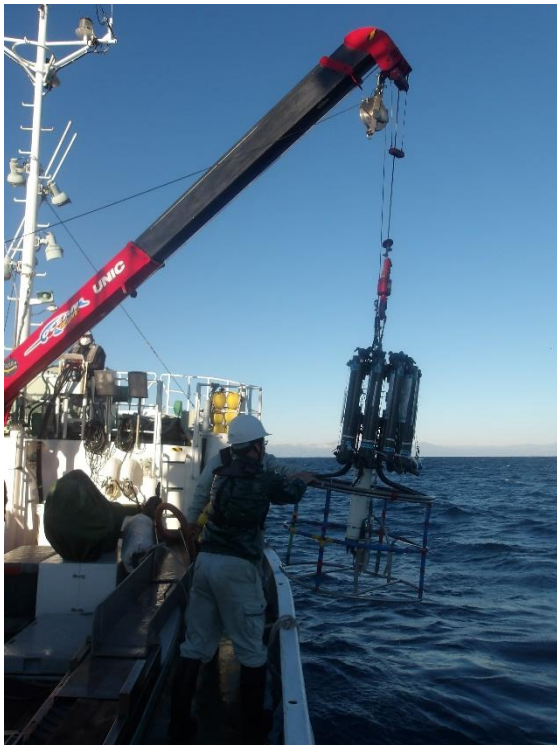
江の島丸コラム

題 相模湾でクジラと遭遇

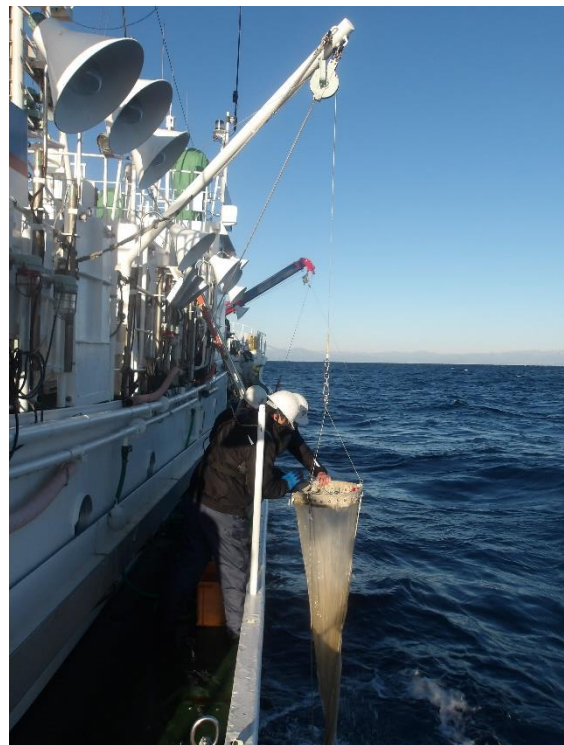
今回のコラムは、相模湾での珍しい体験について甲板次長の鶴島をご紹介します。

本船は2022年1月6日から7日にかけて、月に1度実施している「沿岸定線調査」のため三崎漁港から相模湾に向け出航しました。

※「沿岸定線調査」とは、海の水温や塩分、海の流向流速・透明度・クロロフィル量・溶存酸素量などを定期的に観測し、プランクトンネットで卵稚子（魚の卵など）の採集を行う調査です。その調査結果は、神奈川県が一般に向けて情報提供をしている「海況予報」をはじめとした、様々な研究などに活用しています。



(調査に使う観測器)



(プランクトンネット)

気温4℃、「蒸気霧」が発生し雨と雪の降る中、1日目の調査を終えた私たちは、静岡県伊東港沖にアンカーを打ち一晩錨泊しました。



(蒸気霧が発生している様子)

※「蒸気霧」とは

暖かい水面上に冷たい空気が流れ込んでくると、水面から蒸発した水蒸気が冷やされ湯気のような霧が発生。(気温と海水の温度差が15℃以上あると発生する)お風呂の湯気と同じ原理。地域によっては「けあらし」とも呼ばれる。

当日、霧の濃いところでは視程が300m程度のところもありました。

翌7日の午前5時半、残りの調査を実施するため東海域の観測点に向け航行を開始。昨日の悪天候とは一転し、晴天となり、気温5℃水温18.3℃と比較的暖かく海上も穏やかで絶好の観測日和となりました。午前7時半頃、静岡県川奈埼の東12マイル付近に到達した際、南方に漂う推定5トン?の「マッコウクジラ」と思われる7頭の群れと遭遇。しばらく群れは「江の島丸」付近をまるで併走するかのように泳いでいる姿を、間近で目にすることが出来ました。(写真にはないですが、クジラと共にマンボウも泳いでいました)



(潮を吹いているクジラ)



(クジラの群れ)

長年船に乗っている先輩方も「相模湾で群れているクジラを観るのは珍しい。」と話していました。

なかなか出会うことのない今回の体験は、私たちにとって明るい年の始まりとなりました。



(風も良く絶景の富士を仰いでの調査は格別です)